

2020年3月期 連結業績概要

専務執行役員
山西 哲司

米中関係の悪化により中国はじめ世界経済の減速が鮮明に。
第4四半期には新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、
各国の経済活動が停滞し、電子機器の生産、電子部品の需要に影響。

- 売上高は前期比1.4%減、営業利益は前期比9.2%減

- マクロ需要が厳しくなる中、二次電池が堅調に推移しエネルギー応用製品が増収増益を確保。

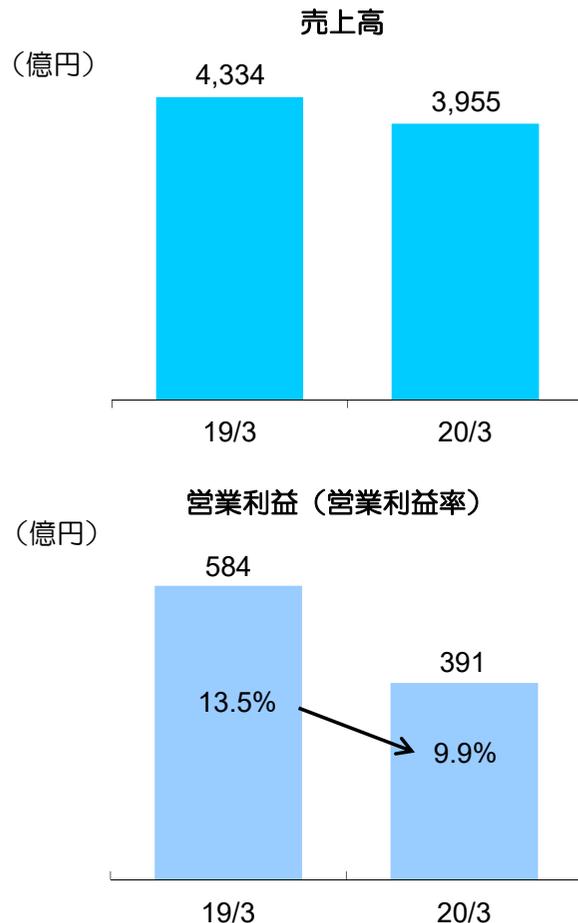
- 自動車市場及び産業機器市場の需要が低迷する一方、ICT市場向け売上が前期比で増加。
5G向け需要増加を背景に、二次電池、高周波部品等はスマートフォン・基地局向けの販売が
拡大し全社収益を牽引。

- 自動車市場及び産業機器市場における需要低迷の長期化によりマグネット、アルミコンデンサの
減損を計上。

2020年3月期 連結業績概要

	(億円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期実績	前期比	
				増減	増減率 (%)
売上高		13,818	13,630	△ 188	-1.4
営業利益		1,078	979	△ 99	-9.2
営業利益率		7.8%	7.2%	-0.6 pt	-
税引前利益		1,156	959	△ 197	-17.0
当期純利益		822	578	△ 244	-29.7
1株当たり利益 (円)		651.02	457.47	-	-
為替	対ドルレート (円)	110.94	108.82	1.9%の円高	
	対ユーロレート (円)	128.48	120.92	5.9%の円高	
為替変動による 影響金額		売上高：約407億円の減収 営業利益：約31億円の減益			

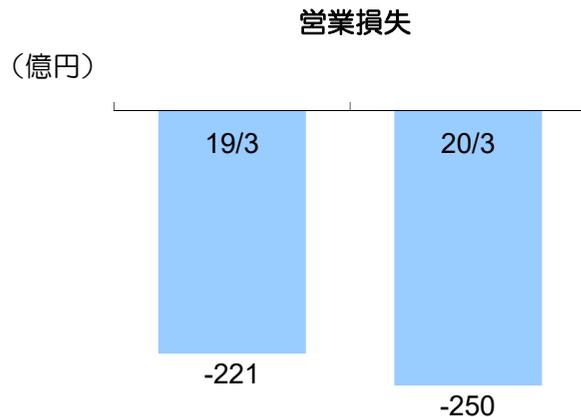
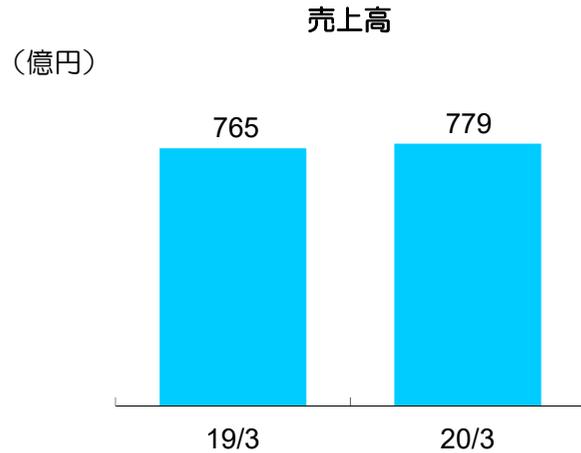
2020年3月期 各事業の状況（受動部品事業）



売上高 3,955億円（前期比8.7%減）
営業利益 391億円（前期比33.0%減）

- セラミックコンデンサ
 - 前期比で減収減益。
 - 自動車市場及びICT市場向け販売が増加。
 - 産業機器市場及び代理店向け販売は減少。
- アルミ・フィルムコンデンサ
 - 前期比で減収減益。
 - 産業機器市場及び自動車市場向け販売が減少。
 - 第4四半期に減損を計上。
- インダクティブデバイス
 - 前期比で減収減益。
 - 自動車市場、産業機器市場及び代理店向け販売が減少。
- 高周波部品
 - 前期比で増収増益。
 - ICT市場（5G関連）向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
 - 前期比で減収減益。

2020年3月期 各事業の状況（センサ応用製品事業）

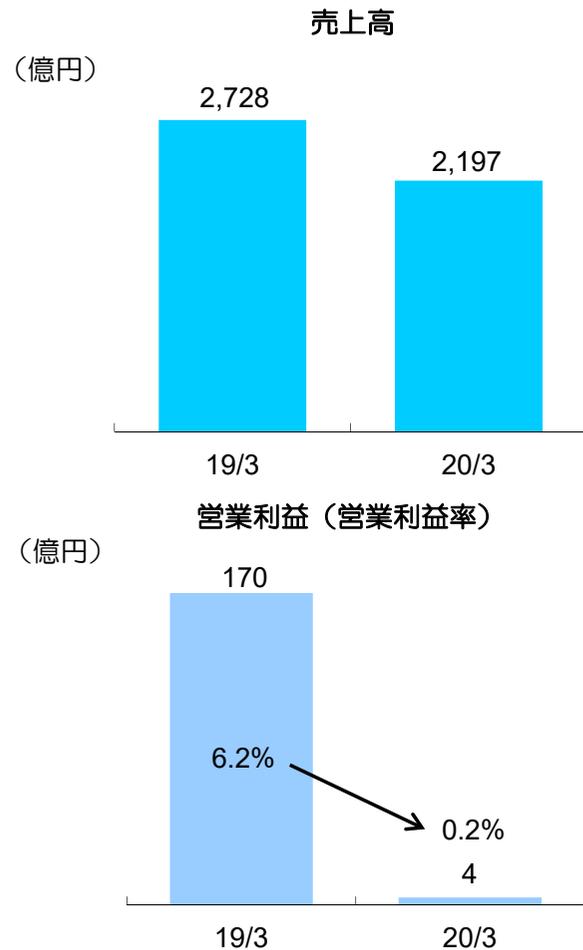


売上高 779億円（前期比1.8%増）
営業損失 Δ250億円（前期比一%増）

● センサ

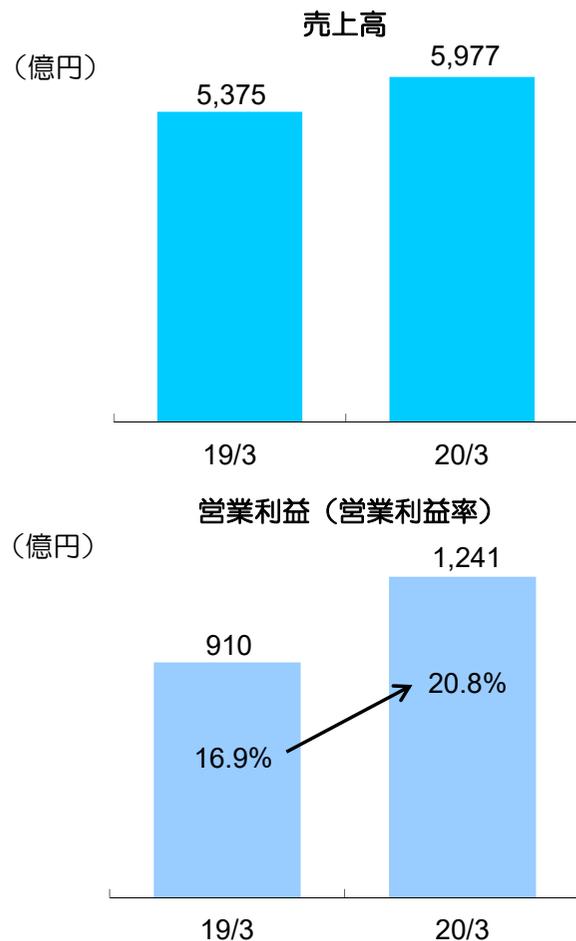
- コンベンショナル製品（温度・圧力センサ、ホールセンサ）の販売が自動車市場及び産業機器市場向けで減少し、収益も悪化。
- TMRセンサは、自動車市場及びICT市場向け販売が大幅に拡大し増益。
- MEMSセンサは、モーションセンサ及びMEMSマイクロフォンが、顧客基盤、アプリケーション基盤の拡大により販売が拡大。

2020年3月期 各事業の状況（磁気応用製品事業）



売上高 2,197億円（前期比19.5%減）
営業利益 4億円（前期比97.6%減）

- HDDヘッド・HDDサスペンション
 - HDD組立数量が前期比で大幅減も、HDDヘッドの収益性は改善。
 - HDDサスペンションの収益性も改善。
- マグネット
 - 前期比で減収減益。
 - 主に自動車市場及び産業機器市場向けの販売が減少。
 - 第4四半期に減損を計上。



売上高 5,977億円（前期比11.2%増）
営業利益 1,241億円（前期比36.4%増）

- エナジーデバイス（二次電池）
 - 前期比で増収増益。
 - モバイル用途（スマートフォン、タブレット、ノートPC）向けの販売が好調に推移。
 - ゲーム機向けやミニセル製品の販売が拡大。
- 電源
 - 設備投資需要の落ち込みにより産業機器用電源は前期比で減収減益。
 - EV電源は減収減益。

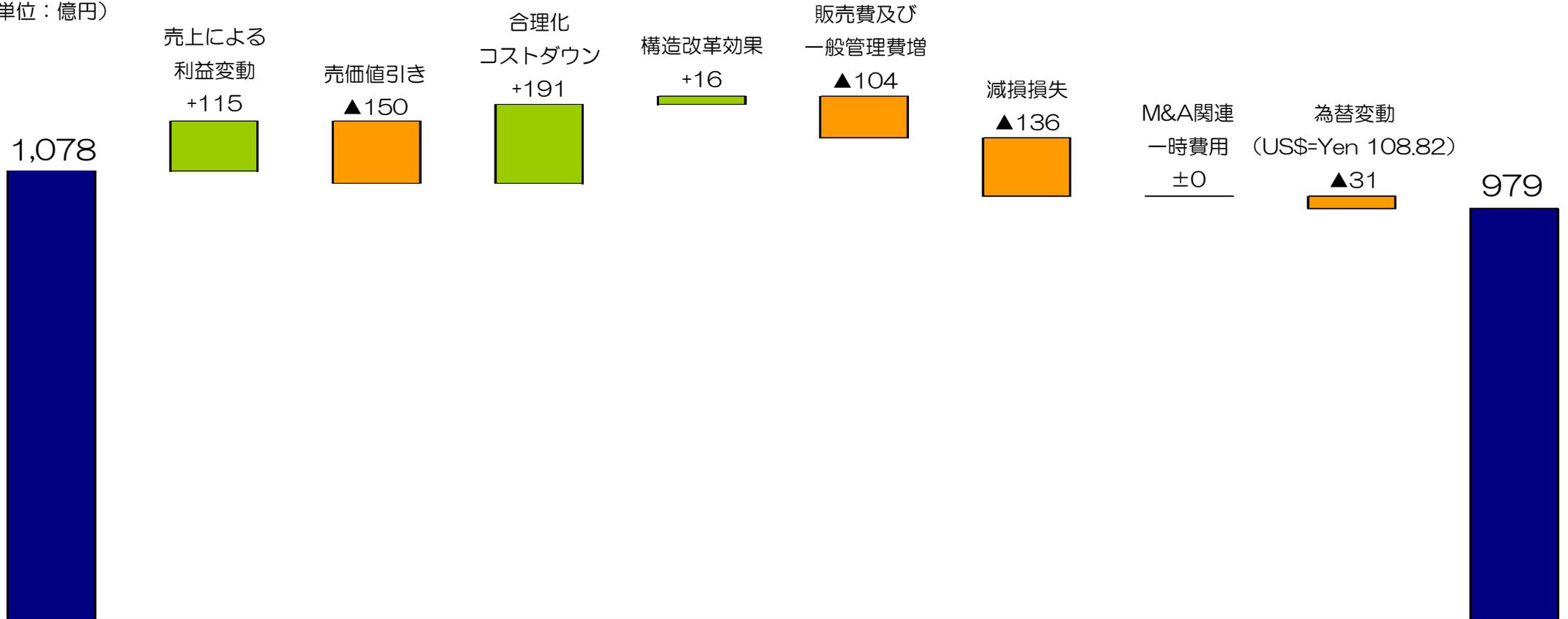
営業利益増減分析

2019年3月期
1,078億円

営業利益 ▲99億円

2020年3月期
979億円

(単位：億円)



2020年3月期 セグメント別四半期実績

(億円)		2019年3月期 第4四半期 (A)	2020年3月期 第3四半期 (B)	2020年3月期 第4四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	423	373	377	△ 46	△ 10.9	4	1.1
	インダクティブデバイス	343	348	330	△ 13	△ 3.8	△ 18	△ 5.2
	その他受動部品	253	263	263	10	4.0	0	0.0
	受動部品合計	1,019	983	970	△ 49	△ 4.8	△ 13	△ 1.3
	センサ応用製品合計	173	203	187	14	8.1	△ 16	△ 7.9
	磁気応用製品合計	605	579	518	△ 87	△ 14.4	△ 61	△ 10.5
	エネルギー応用製品合計	1,118	1,612	1,183	65	5.8	△ 429	△ 26.6
	その他	176	179	145	△ 31	△ 17.6	△ 34	△ 19.0
	合計	3,091	3,556	3,004	△ 87	△ 2.8	△ 552	△ 15.5
営業利益	受動部品	133	106	67	△ 66	△ 49.6	△ 39	△ 36.8
	センサ応用製品	△ 72	△ 55	△ 70	2	-	△ 15	-
	磁気応用製品	48	52	△ 115	△ 163	-	△ 167	-
	エネルギー応用製品	121	405	147	26	21.5	△ 258	△ 63.7
	その他	△ 28	△ 25	△ 58	△ 30	-	△ 33	-
	小計	203	484	△ 30	△ 233	-	△ 514	-
	全社および消去	△ 74	△ 80	△ 84	△ 10	-	△ 4	-
	合計	129	404	△ 114	△ 243	-	△ 518	-
営業利益率	4.2%	11.4%	-	- pt	-	- pt	-	
為替	対ドルレート (円)	110.23	108.74	109.05				
	対ユーロレート (円)	125.18	120.34	120.32				

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競争条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir_events/conference/2020/4q_1.htm